

1 教科について

国語

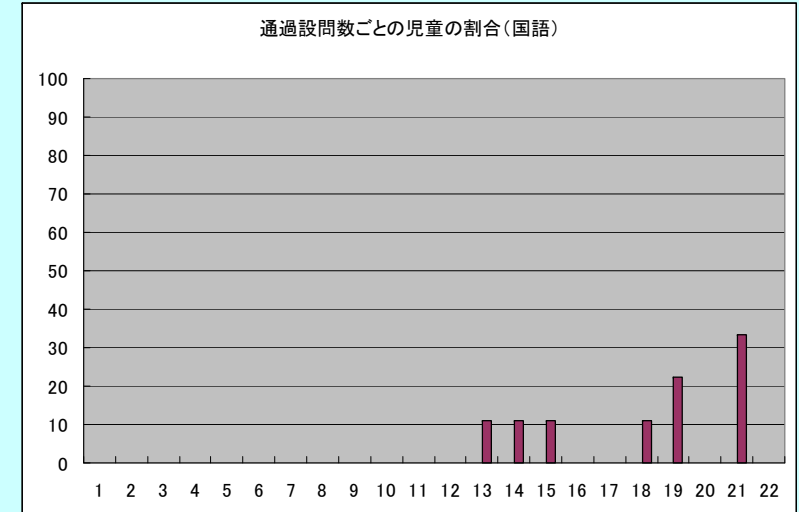
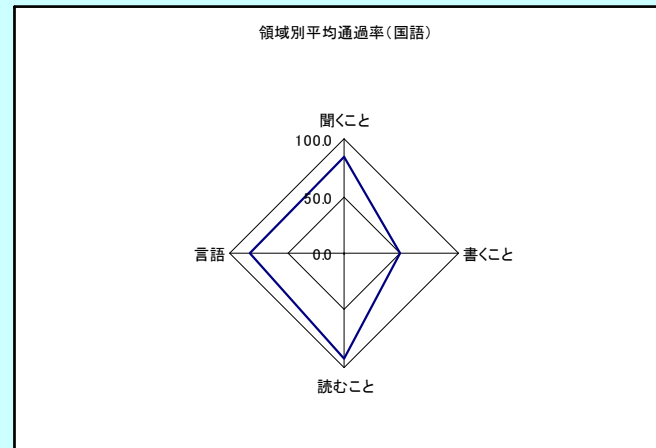
「基礎・基本」定着状況調査通過率 学校平均 80.4 % 県平均 75.8%

昨年度の課題

- ① 「読むこと」では、「段落相互の関係を考えながら文章を正しく読む」「中心文やキーワードを見つけ要約する」ことに課題がある。(通過率 66.7%)
- ② 「言語事項」では、主語・述語の関係を考えることや漢字・ローマ字が定着できていない児童がいる。(通過率 66.7%)
- ③ 「聞くこと」で話の要点を聞き取ることに課題がある。(通過率 50.0%)

昨年度の課題を受けて
具体的に取組んだ事項

- ① 「読むこと」では、説明文単元を中心に年間2回以上の授業研究を実施し、学年ごとの学習内容を整理し、重点的に指導した。
- ② 「言語事項」では、毎週1回の「ことばタイム」で、主語と述語の関係に関連する問題に取り組み、確認プリントにより繰り返し指導を行った。漢字は1ヶ月に1回の確認テストを行い、反復練習を継続した。
- ③ 「聞くこと」では、メモの取り方を具体的に指導し、メモを取りながら話の中心に気をつけて聞く機会を意図的に設定した。また、授業や発表朝会の中で質問をさせ、考えを伝え合うペアトークを積極的に取り入れた。
- ④ 音読や読書に重点をおき、学年ごとに目標を設定し取組んだ。



重点課題 ◎: 「基礎・基本」定着状況調査
◇: 全国学力・学習状況調査

- ◎ 「読むこと」では、場面の移り変わりや情景の想像(物語文)に関する問題の読み取りが不十分で、理由をあげる記述も一面的である。(77.8)
- ◎ 「言語事項」では、漢字の定着が十分でない。(55.6)
- ◎ 「書くこと」では文章の推敲・構成の通過率が低い。特に、手紙の書き方では、差出人を書く位置の誤答が多い。(44.4)

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

- ① 授業の中で叙述から根拠をみつけ発表をさせることを徹底する。物語文の学習では、登場人物の様子と心情の変化の両面を考えさせて、様子と心情を結びつけて読み取らせていく。また、1時間に1回は自分の考えをノートに記述することを徹底する。
- ② 国語辞典や漢字辞典を積極的に活用させ、漢字や言葉に興味を持たせていく。また、ドリルタイムや家庭学習などの反復練習も継続して、週1回の漢字テストを実施し個人の定着状況を把握していく。
- ③ 招待状や手紙などの書き方については、学年に応じた基本的な文型を理解させ、他教科と関連させて指導していく。また、生活の中で手紙を書く場を意図的につくる。

来年度の目標値

- 読むこと、書くことの通過率を80%以上にする。
- 全ての領域で県・市の通過率を上回る。

指導方法等の改善計画について

算 数

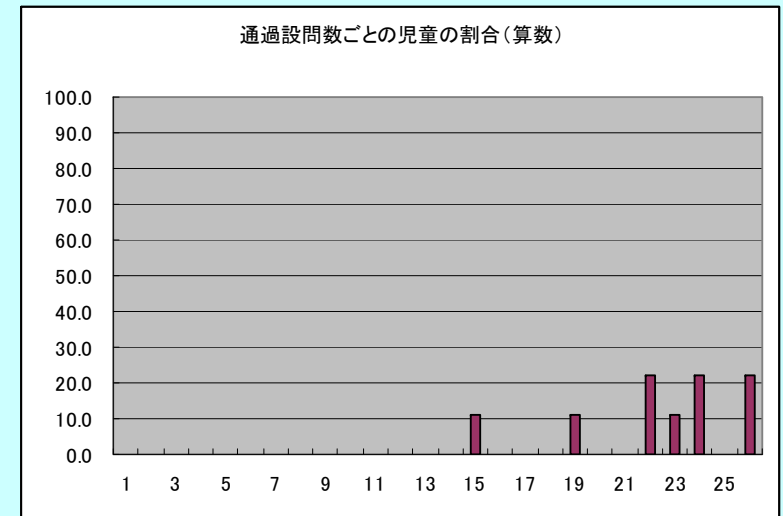
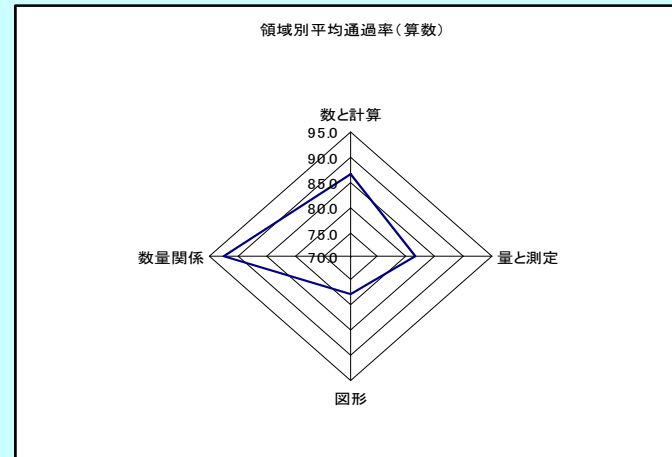
昨年度の課題

- ①「量と測定」領域において、数量のイメージ化ができず、面積や重さ、角の測定、かさや量にあった単位の理解に課題がある。(通過率 61.1%)
- ②「図形」領域において、直角三角形の作図に課題がある。(通過率 66.7%)
- ③「数量関係」領域において、棒グラフの特徴を読み取ることに課題がある。(通過率 66.7%)

昨年度の課題を受けて 具体的に取組んだ事項

- ①実際の量を予想させ、それを確かめる活動を仕組んだ。長さ、重さ、かさ、広さ等について、実際に見たり触れたりできる校内掲示等を工夫するとともに様々な場を活用して量感を意識する活動を仕組んだ。
- ②図形領域では、常に構成要素に着目させ、図形の定義・性質と結び付けて理解させたり、作図させたりした。
- ③数値をグラフに表すよさとグラフについての基本的な知識やきまりなどを指導した。他教科でも、いろいろなグラフに触れさせてそれぞれのよさを実感させた。
- ④問題解決型の授業を展開した。前時との違いを明確にし、既習内容をもとに考え、言葉や図や式を使って考えを説明する力をつけるよう取り組んだ。また、定着を図るための「チャレンジタイム」を継続した。

「基礎・基本」定着状況調査通過率 学校平均 85.3 % 県平均 75.0%



重点課題 ◎:「基礎・基本」定着状況調査 ◇:全国学力・学習状況調査

- ◎「数と計算」領域において、情報の整理と判断に課題がある。式を使用して理由を述べていない回答が多い。(通過率 55.6)
- ◎「量と測定」領域において、時間の単位の内容に課題がある。(44.4)
- ◎「図形」領域において正三角形・ひし形の定義に関する内容に課題がある。(55.6)

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

- ① 問題解決型の授業を定着させ、自分の考えを発表する場合はノートに考えの根拠を書かせ、図や絵、式を使って、説明をさせることで、発表につなげていく。また、多様な方法で求めることができる問題を、ペアで相談したり、全体で交流したりする場を設けて、問題を解くまでの過程を重視する授業構成を考える。
- ② 家庭生活の中で、時間や時刻を意識・活用させるような指導や言葉がけをしていく。家庭にも、時間や時刻について意識するよう啓発していく。
- ③ 図形においては、同じような形の図形と比較し違いを考えさせ、操作活動をしたり、構成要素に着目させたりして図形の定義について意味理解させる。

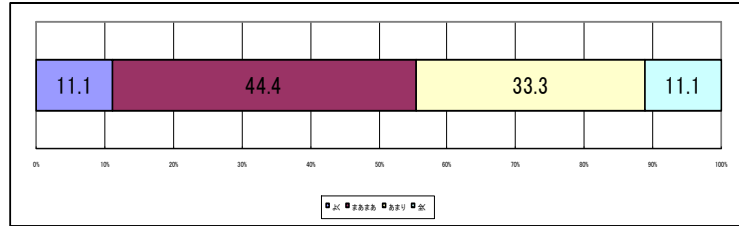
来年度の目標値

- 量と測定、図形の通過率を80%以上にする。
- 全ての領域で県・市の通過率を上回る。

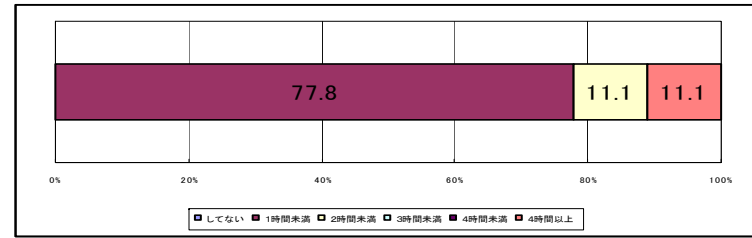
2 質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：学校質問紙調査，児童質問紙調査）（全国学力・学習状況調査：学校質問紙，児童質問紙）

(1) 生活・学習

比較しながら聞く



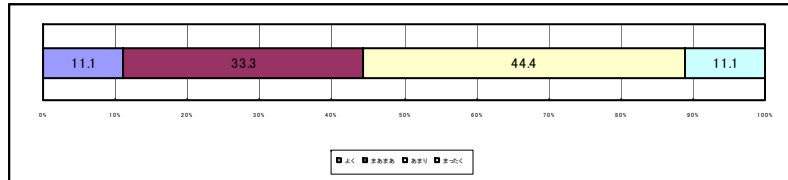
一週間の読書



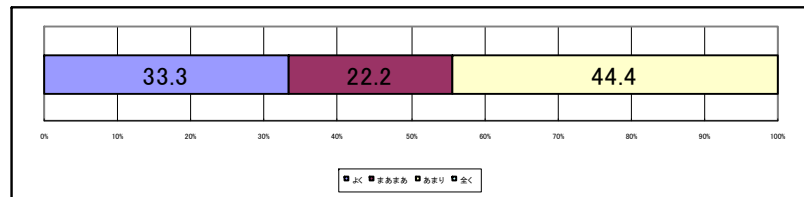
改善したい点 (◎「基礎・基本」, ◇「全国」)	今後の具体的な取組の内容
◎自分の考えと他人の考えを比較しながら聞く割合が半数に満たない。 ◎1週間の家での読書時間が1時間以内の児童の割合が多い。	◎学習規律「本郷スタイル」を掲示し、繰り返し働きかけ、児童一人一人の意識を高めるとともに、各学年に応じた目標を明確にし、定着を図る。授業中や全校集会などで話を聞くときの視点を明確に示し、視点に沿って交流する活動を設ける。 ◎家での読書をさらに定着させるために通信や懇談会などで啓発を行う。また、チャレンジウィークを活用し、読書の目標設定時間を多くし、取り組ませていくことで家読書の習慣化を目指していく。
来年度の目標値	・自分の考えを表現することについての肯定的評価を70%以上にする。 ・1週間の家読書の時間を1時間より多い児童を2ポイント上げる。

(2) 教科

国語の授業では、話をするとき、最も伝えたい中心をどこで言うと分かりやすいか考えながら話しています。



算数の授業はよく分かります。



	児童の回答と学校の指導についての課題 (◎「基礎・基本」, ◇「全国」)	授業改善の方向性や具体的な取組
国語	◎話をするとき、最も伝えたい中心をどこで言うとわかりやすいか考えながら話している児童の肯定評価が低い。 ◎伝えたいことの中心をはっきりさせ、組み立てを考えて文章を書くことを意識していない児童が半数いる。	◎ペア学習では、まず、自分の考えを話すこと、次に、自分の考えの中心をはっきりとさせてから話すことを段階的に指導する。また、国語の授業では、段落構成や文章や段落の中心など、筆者がもっとも述べたいことは何かを考える授業も継続して行っていく。 ◎朝会や集会で感じたことや考えたことなどを、中心をはっきりとさせて書く機会を増やしていく。2つの文章を読み比べさせ伝えたいことがはっきり分かる文書の書き方について考えさせる活動を取り入れる。
算数	◎算数の授業がよくわかると答える児童の割合が低い。 ◎自分の力に合った内容や方法、学習の進み具合などを選んで学習するほうがよく分かると思う児童の割合が多い。	◎「できた」という達成感を持たせられるよう、単元別フォローアッププリント等を活用し、繰り返し定着を図る。児童相互で教えあえるような時間も設定し、複式のよさを生かした授業を組み立てていく。 ◎適用問題により定着をはかる場面で、自分の理解度に応じたコースを選んで学習をすすめさせる。
	来年度の目標値	・算数の授業がよくわかると答える児童の割合を2ポイントあげる。

指導改善のための実施スケジュール

